

会報

一般社団法人 北海道電業協会

No.207
2025.10



会 報

2025. 10
No.207

目 次

巻頭言「道有建築物の整備における建築局の取り組み」

北海道建設部建築局長 飯 沼 善 範…………… 1

就任ご挨拶

(一社)北海道電業協会 副会長 小 林 直 樹…………… 2

岸野電気(株) 札幌支店 支店長 花 輪 重 雄

住友電設(株) 北海道支店 支店長 吉 岡 智 己

(株)データベース 代表取締役 清 重 正 樹

北関電気工事(株) 代表取締役社長 野 中 譲

後志電業協会 会長 木 村 英 司

室蘭電業協会 会長 千 葉 昌 子

苫小牧電業協会 会長 大 滝 力 緒… 3～6

日本電設工業協会本部との意見交換会…………… 7

令和7年度 安全大会 …………… 8

令和7年度 札幌市電気設備施工研修会 …………… 9

令和7年度 電気通信事業に関する意見交換会 ……………10

技術系学校先生との意見交換会……………11

技術系学校生徒の現場見学会……………12

シーケンス制御の基礎【実技】講習会……………13

令和7年度 北海道と設備4団体による意見交換会 ……………14～15

地方取材『福司酒造』を訪ねて！

福司酒造(株) 代表取締役社長 梁 瀬 之 弘…16～19

シリーズ 1／179 便り

・誰もが安心して暮らせる 豊かで活気あふれるまち あしよろ ～足寄町～

足寄町長 渡 辺 俊 一…20～21

シリーズ 地区協会便り

後志電業協会 会長 木 村 英 司…22～23

シリーズ 現場からこんにちは ～釧路市学校給食センター電気設備工事～……………24～25

厚生事業活動報告……………26～27

シリーズ 私のいちおし

島津電設(株) 代表取締役 嶋 津 博……………28

業界だより、理事会・三役会議・委員会報告……………29～31

事務局日誌……………32

編集後記



道有建築物の整備における 建築局の取り組み

北海道建設部建築局長 飯 沼 善 範

(一社)北海道電業協会の皆様には、日頃より北海道の営繕行政の推進にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

道内経済は徐々に回復の兆しが見られるものの、人手不足への対応に伴う人件費の上昇や、不安定な国際情勢を背景としたエネルギー価格および原材料価格の高騰が長期化しており、依然として厳しい経営環境が続いていることと存じます。

このような状況の中にあっても、皆様におかれましては、平時には日常生活や産業活動に欠かせない電気設備の整備や保守管理にご尽力いただいているほか、地震や風水害などの災害時には、ライフラインや設備機能の確保に向けた点検や復旧活動に迅速なご対応をいただいております。深く敬意を表する次第です。

近年、建築局が発注する電気工事は、おおむね年間40億円規模で推移しておりますが、令和7年度については、道営住宅の新築や高等学校の増築・改修工事に加え、LED化やエアコン設置に伴う電源改修工事など、約45億円の事業量を見込んでおります。今後とも、事業量の確保、分離発注、工事の早期発注に努めてまいります。

道では、2050年までに温室効果ガスの排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボン北海道」の実現に向け、道内各地域における脱炭素化の取り組みを支援しております。建築分野におきましても、ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の実現に向けて、LED照明や高効率空調設備の導入や、太陽光発電設備の設置といった再生可能エネルギーの導入など、脱炭素化を推進すべく道有施設の整備を進めており、本年10月には、ZEB認証を取得した根室振興局中標津合同庁舎が、来年1月には、同じく認証を取得した北海道立総合研究

機構北見農業試験場が、それぞれ完成を迎える予定です。

また、本年7月にリニューアルオープンした重要文化財・赤れんが庁舎におきましても、LED照明の導入に加え、冷房設備の一部に地下水を活用するなど、脱炭素化への取り組みを進めております。

一方で、昨年度より建設業にも時間外労働の上限規制が適用され、就業者の高齢化も進行する中で、生産性の向上や担い手の育成・確保など、雇用環境の大きな変化への対応が求められております。建築局におきましても、週休2日制の導入、施工時期の平準化を見据えた適正な工期設定による長時間労働の是正のほか、遠隔臨場、情報共有システム、建設キャリアアップシステムの全工事への導入などにより、生産性の向上と処遇改善に努めているところです。

今後とも、官民が連携し、建設業が若者や子どもたちにとって魅力ある業種となるよう、また、持続的かつ安定的な発展が図られるよう、取り組みを進めてまいりますので、皆様におかれましては、引き続き、道の施策推進に対するご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

最後になりますが、貴協会のますますのご発展と、会員皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。挨拶とさせていただきます。



就任ご挨拶

一般社団法人 北海道電業協会
副会長 小林 直樹

秋冷の候、会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

このたび、国井前副会長の後任として、4月25日に開催された第1回理事会にて副会長に選任されました、日本電設工業(株)北海道支店執行役員支店長の小林 直樹でございます。

平素より、当協会ならびに会員の皆様には大変お世話になり、心より厚く御礼申し上げます。当協会の理事として、令和3年6月より3年10ヶ月を無事に務めさせていただいたのも、会員の皆様のご支援があったからこそと深く感謝申し上げます。

日本国内は、海外での二国間紛争の長期化、為替相場の円安に伴うエネルギー価格の高騰、米国からの相互関税引き上げなどにより物価上昇は収まる気配がありません。

また、近年の出生率低下による少子高齢化に伴い、労働人口の減少は留まることなく、特に建設業においては高齢化による引退と、新規就労者数減少、技術継承の難しさもあり、技能職の人手不足が深刻化している状況です。

併せて、昨年4月1日より建設業にも適用となった労働時間の上限規制に伴い労務費は高騰傾向に転じており道内で予定されている大型建設工事に対し計画規模や着工時期の変更、最悪は計画の中止等多大な影響が出ている状況と考えます。

しかし、千歳の半導体工場や苫小牧のデータセンター建設工事、札幌駅前ならびに大通地区の大型複合施設やホテル建設工事は着手されており、今後予定されている大型プロジェクトについても、計画変更を含め具体的に工事着手に向けた段階に近づいてきており、今後のスケジュールから目が離せません。

建設業において、一番の問題である技術・技能者不足についてですが現在、当協会も将来の担い手育成に向けた活動を積極的に取り組んでいるところです。しかし、人手不足は全産業において問題となっているため、結果として売り手市場となり、根本的な問題解決に向けたハードルは未だ高い状況です。

少しでも多くの新規就労者を獲得できるような活動と、入社後の離職率を低下させる具体的な活動に向けて検討してまいりたいと思います。

これから就職する世代の多様性や価値観、考え方について少しでも理解できるように、併せて電気工事業界への女性の積極的進出についても検討と議論を会員皆様の協力のもと、少しでも前に進めていけますように努力してまいります。

その際は会員皆様から、忌憚のない意見を、お聞かせいただきたいと存じます。

電気工事業界で抱える諸問題解決に向けて、電業協会活動に微力ながら貢献してまいりますので今後ともご支援、ご協力の程お願いいたします。

最後になりますが、会員皆様のご繁栄とご健勝、北海道電業協会の益々の発展をご祈念申し上げます、副会長就任の挨拶とさせていただきます。

就任ご挨拶



岸野電気(株)札幌支店
支店長

花 輪 重 雄

秋冷の候、会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

このたび、令和7年7月1日付けで前札幌支店長 中村 崇裕の後任として就任しました花輪 重雄でございます。

平素は当協会ならびに会員の皆様には大変お世話になり、心より厚く御礼申し上げます。また、経験不足ではございますが会員の皆様にご指導、ご鞭撻をいただきながら当協会および業界の発展に微力ながら尽くして参る所存でございますので、前任者同様何卒よろしく願いいたします。

当社は明治45年に創業。北海道には昭和33年札幌出張所を開設、昭和35年札幌支店へ昇格し、主に電気設備工事全般を手掛けて参りました。

私事ですが、首都圏エリアで一貫して営業職に従事して参りまして、このたび、初めて北海道の地で支店長として勤務することになりました。不安な気持ちもありますがこの広大な土地で何か挑戦出来るのではないかと自分自身に期待しております。

現在、北海道でも大規模プロジェクトが多く需要が高い状況が続いております。労働者不足や高齢化、資材価格の高騰、時間外規制など、様々な課題もありますが、皆様と協調し合いながら貢献出来ればと思っております。

最後になりましたが、当協会の益々のご発展と会員皆様のご繁栄とご健勝を祈念申し上げ、新任の挨拶とさせていただきます。



住友電設(株)北海道支店
支店長

吉 岡 智 己

秋晴の候、本協会ならびに会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。この度6月1日付で島田 光優の後任として北海道支店長に就任いたしました吉岡 智己でございます。

私は東北で生まれ育ち、入社以来、関東で電気設備工事の施工管理に従事し、初めての北海道勤務です。着任のご挨拶に行く先々でこれから迎える冬の厳しさや雄大な自然、至高の食材の話題などを伺い、北海道の特別感を感じております。

弊社は住友電気工業(株)系列の電気設備工事会社

として、1950年に太陽電設工業(株)を設立し、1969年に太陽工藤工事(株)、1985年に住友電設(株)へ改称し、お蔭様をもちまして75周年を迎えました。

北海道は1970年より、住友系列各社の工場や一般ビルを中心に御用命いただいております。

現在は電気工事業界に限らず就業者の高齢化、担い手不足などの社会問題が深刻であり、作業能率や安全性の向上、労働環境や待遇の改善整備が急務となっています。

弊社でも、安全・品質・コンプライアンスを事業の根幹と捉え、安心して働きがいと魅力ある職場、ステークホルダーから選ばれ続ける企業を在りたい姿とし、当協会を通じて情報共有や各種活動に携わり、微力ながら業界の発展に寄与出来ればと考えております。

最後になりますが、当協会の益々のご発展と会員皆様のご繁栄、ご健勝を祈念申し上げ、新任のご挨拶とさせていただきます。



(株)データベース
代表取締役

清 重 正 樹

このたび、株式会社データベースの代表取締役
に就任いたしました清重 正樹でございます。北
海道電業協会の皆様には、日頃より多大なるご支
援とご指導を賜り、心より感謝申し上げます。微
力ではございますが、社業の発展はもとより、北
海道の電気業界の更なる振興に貢献すべく、誠心

誠意努めて参る所存です。

電気事業を取り巻く環境は日々変化してしま
いますが、持続可能な社会の実現に向け、地域の皆様
の安心・安全な暮らしを支える組織としての責務
を改めて認識し、協会の皆様と連携を深めながら
当社も本協会の一員として、その発展と地域社会
への貢献に尽力して参る所存です。

なお、お取引先様をはじめ、関係各位の皆様
には、今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りま
すようお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様のご健勝とご発展を心より
お祈り申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。



北関電気工事(株)
代表取締役社長

野 中 讓

清秋の候、会員の皆様におかれましては益々
ご清栄のこととお慶び申し上げます。この度、6月
12日付にて、前任岡崎 義勝の後任として代表取
締役社長に就任いたしました、野中 讓でござい
ます。平素は、当協会ならびに会員各社の皆様
には格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

弊社は、昭和45（1970）年札幌に設立し、内線
工事を主体とした電気工事会社として、今年で55
年の歴史を刻んでまいりました。設立当時の札幌
は、人口が100万人を超えるとともに、昭和47年
の冬季オリンピック札幌大会が決定すると、オリ
ンピック関連施設のほか、市役所新庁舎、地下
街、地下鉄などが整備されました。

また、民間資本の建設ラッシュが起こり、札幌
の街は飛躍的な発展を遂げる中、弊社もその数多
くの工事に携わり、今日の基盤を築くことが出来
ました。

私は現場での経験こそございませんが、これま

で社業を支えてきた先人たちの思いをしっかりと
受け継ぎ、社員が誇りとやりがいを持って働ける
環境づくりに努めてまいります。

また、技術の進化や社会のニーズが変化する中
にあっても、「安全第一」と「確かな品質」という
原点を忘れず、地域社会から信頼される企業であ
り続けることを目指してまいります。

最後になりますが、当協会の益々のご発展と会
員様のご繁栄とご健勝を祈念申し上げ、新任の挨拶
とさせていただきます。





後志電業協会
会長

木村 英司

秋涼の候、会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

このたび、令和7年度4月の定時総会におきまして会員の皆さまのご推薦により、会長を仰せつかりました、(株)大江電気の木村でございます。歴代会長が築き上げてこられた揺るぎない礎を前に、身が引き締まる思いですが、この大役を拝命し、協会の未来のために全身全霊をかけて取り組んでいく所存です。

後志電業協会は、昭和53年設立から48年、後志地域20市町村から構成されており現在、会員会社は18社にて活動しています。

現在、私たちの業界は、大きな変革の時代を迎えています。脱炭素社会の実現に向けた再生可能エネルギーの導入、AIやIoTを活用したスマートグリッドの進化、そして何より、頻発する自然災

害への対応など、課題は山積しています。

しかし、これらの課題は同時に、私たちの技術と知識が試される、大きなチャンスでもあると捉えています。時代の変化に対応した新たな技術を積極的に学び、会員企業が一丸となって、情報を共有し、互いに切磋琢磨していくことが不可欠になってきます。

今後は、人材育成と技術力向上を二つの柱として活動を推進して参ります。若い世代がこの業界に魅力を感じ、誇りを持って働ける環境を整えること。そして、ベテランから若手へと確かな技術と知恵を継承していくこと。これらが、協会の持続的な発展に繋がると考えています。

また、地域社会との連携をさらに強化し、災害時には迅速な対応で地域の安心・安全に貢献して参ります。協会の活動を通して、後志の皆様「電業協会があって良かった」と思っていただけのように、全力を尽くして参ります。

結びになりますが、北海道電業協会の皆様のご指導ご鞭撻を賜りますとともに、変わらぬご支援助とご協力を心よりお願い申し上げます、就任の挨拶とさせていただきます。



室蘭電業協会
会長

千葉 昌子

このたび、4月に開催されました総会におきまして徳本 栄一前会長の後任として会長を拝命しました、(株)耕電設の千葉 昌子でございます。

会長就任にあたり、これまでの室蘭電業協会の歴史、歴代会長、会員各位の功績に対し敬意を表するとともに、責任の重さを痛感し身の引き締まる思いでございます。

現在、本会の会員は新規加入1社を加え、西胆振地方の21社で構成されており、団体会員として登別電業協会、伊達電設協会が所属し、本会の運営にご協力をいただいております。労働集約型産業である電気設備業界が今後とも健全に発展して

いくためには、将来を担う優秀な人材確保が必要不可欠であり、若年者の入職促進を図るための仕組みづくりが喫緊の課題となる中、本会としても若手技術者不足解消や技術の継承といった取り組みを継続して進めて参ります。

また、北海道においても猛暑が進む中、本年6月には労働安全衛生規定が改訂され、熱中症対策が義務化されるなど、取り組むべき課題も多岐に亘りますが、本会が一致団結し、日々進化するニーズに順応しながら誠心誠意、課題解消に向けた取り組みを進めて参ります。

今後、関係諸団体等からも業界課題をご理解いただくとともにご指導いただき、本会が地域において更なる存在価値を高められるように活動して参ります。

最後になりますが、北海道電業協会の益々のご発展、並びに会員皆様のご繁栄とご健勝を祈念し、就任のご挨拶とさせていただきます。



苫小牧電業協会
会長

大 滝 力 緒

このたび、苫小牧電業協会の会長を拝命いたしました大滝 力緒でございます。歴史と伝統のある本協会の重責を担うこととなり、その責任の重さをひしひしと感じております。微力ではございますが、地域の電気工事業界の発展に尽力して参りますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

苫小牧市は北海道の産業・物流の拠点として重要な役割を果たしており、私たち電気工事業界も地域のインフラ整備や安全・安心なまちづくりに貢献する立場にあります。再生可能エネルギーの導入や省エネルギー化の推進、さらにはスマート

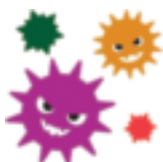
社会の実現に向けた技術革新の波の中で、私たちの担う役割はますます多様化・高度化しています。

こうした状況の中で、若手人材の確保・育成や、労働環境の改善、技術力の継承といった課題にも真摯に向き合っていく必要があります。会員各位が安心して事業に取り組める環境づくりを目指し、行政や関係団体との連携も深めながら、現場の声を反映した協会運営を行って参ります。

また、北海道電業協会をはじめとする関係各位のご指導・ご支援をいただきながら、地域とともに歩む協会づくりを進めてまいります。

これからの電気工事業界が持続可能な成長を遂げられるよう、皆様と力を合わせ、信頼される組織として邁進して参る所存です。

結びに、北海道電業協会の益々のご発展と、会員皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。



新型コロナウイルス

新変異株『ニンバス』拡大中

新型コロナウイルスは、落ち着きを見せながらも、依然として新たな変異株が登場しています。ここ最近、新型コロナウイルス感染者数は、全国の定点医療機関からの報告数が増加傾向にあります。北海道でも、9月4日発表の指定医療機関の1か所当たりの感染者数は、11週連続で前週を上回っています。

必要に応じたマスクの着用、手洗い、換気の徹底が予防の基本です。症状が軽くても早めに受診しましょう！！



日本電設工業協会本部との意見交換会

抱える諸課題やその解決策の認識共有を図る！



令和7年6月17日(火)札幌グランドホテルにおいて、日本電設工業協会本部との意見交換会を開催しました。この意見交換会は、本部と支部役員等による直接対話を通じて、各地域が抱える課題に対する解決策の検討や、本部・支部間の認識の共有化を図ることを目的としています。

本部からは、文挾会長と上野専務理事が出席。当協会からは、藪下会長をはじめ理事、監事の22名が出席しました。



藪下 会長



文挾 会長

冒頭、藪下会長は「広大で全国より速いスピードで少子高齢化が進展している北海道内においては、旺盛な建設需要を背景に若年層を中心とした担い手確保にも大変苦慮している。本日は、道内各地での官民工事の受注実態、人手不足への対応状況などについて、有意義な意見を交換したいと考えている。よろしくお願ひします」と挨拶しました。文挾会長は「今、各地域で抱えられている問題について伺い、協会としてできること、また5つのアクションプランの行動の中に織り込む必要があるのか、PDCAを回し

てまた、色々な所と意見交換、要請活動をしたりして、より良い方向に改善することもやっていかなければならないと考えており、今日は忌憚のない意見交換をさせていただきたい」と挨拶されました。

続いて、第4次アクションプランの目的達成に向けて起こすべき行動や基本的な考え方について、述べられました。上野専務理事からは、第4次アクションプランの具現化に向けての取り組みの現状と課題について説明がありました。

意見交換では、テーマ1「人材確保に向けた取り組み」について、テーマ2「4週8休の定着状況および工期のしわ寄せの状況」について、テーマ3「『時間外労働の上限規制適用』の取り組み」について、各々、支部から状況報告の後、文挾会長、上野専務よりコメントをいただきました。

文挾会長は「採用について、工業高校ばかりでは難しい。普通科、商業科の生徒の業界理解を前提とした採用も一つの方法である。キャリア採用について、HPなどを通じて自社がどういう会社であり、福利厚生も含めて自社が重点を置いているものをPRしていく必要がある」。時間外労働の上限規制適用では「工程の順守と完全週休二日制の設定を要望し続けていくのが重要である」等、意見が交わされました。

令和7年度安全大会



令和7年6月23日(月)北海道電気会館において、企業代表者や現場責任者など124社154名の参加により、当協会ならびに(一社)札幌電設業協会共催による「安全大会」を開催しました。

安全大会は、職場における労働災害防止活動の重要性を実感し、積極的な安全活動の促進を図ることを目的に、例年、全国安全週間前の6月に開催しています。

開会にあたり当協会の松尾 浩技術安全委員長は「これから夏場を迎え工事も最盛期を迎えることになるが、さらなる安全活動への取り組みを労使一体となって確実に実践していただきたい。そして職場で働く一人一人が、自身のため、大切な家族のため、現場での安全確認と設備の適正な管理、さらには作業手順の遵守など、基本的なルールを守って『労働災害ゼロ』を目指していただきたい」と呼び掛けました。



松尾 委員長

安全講話では、最初に札幌市都市局建築部の佐藤 公俊電気設備課長より、道内の労働災害発生状況や過去5年間の建築部発注工事で発生した事故・災害について、建設現場における熱中症対策について解説がありました。労働災害防止につい

ては、建設業の特徴である「重層下請構造」や職場の潜在的な危険性または有害性を除去、低減するリスクアセスメントや労働安全衛生マネジメントシステムの重要性を指摘。『かもしれない』との安全に向けた心構えをもって作業にあたって欲しい」と安全確保を呼び掛けました。

引き続き、北海道警察本部交通部交通企画課の葛西 直人課長補佐からは、交通事故の実態について、交通安全意識の向上と飲酒運転の根絶をテーマに説明がありました。

その中で、横断歩道停止義務に触れ、北海道では停止する割合が全国と比較し著しく低いことを指摘。「ハンドサインでストップ運転」の励行を促しました。最後に札幌電設業協会の嶋川 泰規安全衛生委員長より挨拶があり閉会しました。

<講師>



佐藤 課長



葛西 課長補佐

令和7年度 札幌市電気設備施工研修会



公共工事の検査方法と工事仕様書を学ぶ！

令和7年7月10日(木)北海道電気会館において、当協会ならびに(一社)札幌電設業協会共催による「札幌市電気設備施工研修会」を開催しました。参加した企業代表者や現場責任者など152名は、札幌市から招いた講師の説明を通じ、公共工事の検査方法や電気設備工事仕様書と特記仕様書などについて学びました。

開会にあたり札幌電設業協会の小村 広樹技術委員長より「本日は、札幌市の電気設備工事施工における注意点を学ぶ貴重な機会である。しっかり聞いていただいて会社へ持ち帰り、本日参加出来ない現場担当者へも周知徹底をお願いしたい」と挨拶しました。



小村 委員長

続いて、札幌市都市局建築部佐藤 公俊電気設備課長より「本日は現場代理人と発注側および検査部門との情報交換を行う貴重な場である。質疑を通じて情報共有を図り良好な現場施工、品質向上につなげていただきたい」と挨拶がありました。

引き続き研修会では、都市局建築部電気設備課の佐藤係長より令和6年度の電気設備工事を振り

返って、財政局工事管理室技術管理課の齋藤・渡邊両係長より公共工事の検査について、工事成績評定の概要について、工事施工中の安全確保について、昨年度の検査指摘事項などについて説明をいただきました。

休憩後、令和6年度電気設備工事仕様書・工事特記仕様書について都市局建築部電気設備課の常本係長より説明をいただきました。

その後、事前に会員から寄せられた施工や積算などに関する16項目の質問と要望事項に対して、同課と工事管理室の各担当者より回答をいただき認識の共有が図られました。

最後に当協会の鎌田 拓也専務理事は「本日得られた施工技術を明日からの作業において実践し、工事施工品質の向上はもとより安全確保、技術力向上にも役立てていただきたい」と会員へ呼びかけました。



出席いただいた札幌市の講師の方々

令和7年度 電気通信事業に関する意見交換会



令和7年7月23日(水)、令和7年度札幌開発建設部および北海道開発局事業振興部と管内電気3団体（札幌電設業協会、札幌電気工事業協同組合、空知地方電気工事協同組合）および当協会は電気通信事業に関する意見交換会を開催しました。

札幌開発建設部からは、天野 繁事業調整官をはじめ8名、また本局事業振興部からは、今 将信企画官以下4名が出席しました。当協会からは、伏木 淳副会長、土田 徳造経営委員長、今野 正章経営副委員長の3名が出席しました。

開会にあたり札幌開発建設部 天野事業調整官は「担い手の確保、特に若手社員の入職向上は重要な課題であり、業界全体の取り組みとして、週休二日制の推進や長時間労働の上限など、中・長期的には、若い人たちに魅力的でクリーンな業界である。とあっていただくことが人材確保につながる重要な要素である。それらの取り組みに関して、ともに取り組んでいきたいと考えている。引き続きよろしくお願ひします。本日は忌憚のない意見交換を通じて、魅力ある業界となるよう祈念します」と挨拶がありました。



天野 調整官

当協会の伏木副会長からは「昨今、御局を始め

官公庁の皆さまには、私ども業界の意見や要望を聞いていただき、制度などの改善に取り組んでいただいています。本日は、業界の内容や実情をお話いたしますのでご理解いただき、さらに制度、発注に反映されますようお願いいたします。本日はよろしくお願ひいたします」と挨拶がありました。



伏木 副会長

話題提供では、本局事業振興部および札幌開発建設部より電気通信設備工事の契約・発注状況、建設業等の働き方改革実施方針、工事書類簡素化のポイント、施工効率向上プロジェクトのフォローアップなどについて説明がありました。当協会からは、働き方改革や人材確保と育成の取り組み、受注状況の改善や利益状況などについて説明しました。

意見交換では、札幌開発建設部より事前に提出された質問事項に対して、考え方や回答が示され、質疑とともに意見を交わしました。

最後に北海道開発局事業振興部デジタル基盤整備課 今企画官より挨拶があり意見交換会は閉会しました。

技術系学校先生との意見交換会

電設業界の理解深化に向け意見を交わす！



令和7年8月7日(木)、電気関係の学科を持つ道内の大学や専門学校、工業高校の先生方7名の出席により、札幌グランドホテルにおいて、意見交換会を開催しました。この意見交換会は、電設業界の理解促進と担い手確保を目的に例年開催しています。

冒頭、稲津 亘総務委員長より「先生との意見交換会は、平成3年から始まり、30年を越える有意義な活動となっている。30年前とは大きく変わり急速に少子化が進んでいる。我々の業界も少子化を背景とした人手不足に苦慮している。人々の暮らしを支える大切なインフラである電気設備を預かっている電気工事業界であり、



稲津 委員長

微力ながらも業界の魅力を伝える活動や理解を深める活動にも取り組んでいく。本日はよろしくお願ひします」と挨拶がありました。

続いて、参加した当協会役員と先生方からそれぞれ自己紹介と挨拶が交わされ、事務局より協会の事業案内や活動、配布された資料について説明があったのち、意見交換に入りました。

先生方からは、学生の就職状況について、電設

工事業界に対する学生や保護者の印象や意見などについて、業界や当協会への要望についてなどの発言がありました。

<主な意見・要望>

- 業界の中でのキャリアモデルが学生には良く見えていないのではないかと。30歳代、40歳代のモデル年収を示すのも大事である。
- 学生、保護者が知りたいのは、求人票の総支給額とともに、実際に手元に残る金額はいくらかということである。
- 一般の方へは電気は社会インフラだということを強く訴えていけば、重要性の認知が高まるのではないかと。
- 保護者の方はいわゆるブルーカラーの仕事をあまり理解出来ていないことが多い。電気工事業の給料は高いとの話を聞くと反応はいい。
- ここ数年は、特に保護者間では電気系の仕事は安定しているといった、前向きな評価が多い。
- 学生が電設業界を別に嫌っているということではなく、BtoB企業について、そもそもよく知らず選びようがないということがあり、学生との接点を多く持つていくことが重要である。

技術系学校生徒の現場見学会

～（仮称）札幌北1西5計画～



建設が進む工事現場を見学！

令和7年9月9日(火)技術系学校生徒の現場見学会を開催。札幌科学技術専門学校および札幌琴似工業高校の生徒が参加し、電気工事の現場を見学しました。

この見学会は、担い手確保に向けた事業活動の一環として、電気工事の一端に触れることにより、電気工事業界の実情について理解を深めるとともに、電気工事への関心と興味を高めることにより、電気工事業界への入職率向上を図るため、例年開催しています。

当日は、札幌科学技術専門学校電気技術科の生徒14名と札幌琴似工業高校電気科の生徒2名の計16名が参加。来年6月に竣工を控える札幌市内の「（仮称）札幌北1西5計画」の工事現場を見学しました。

開催にあたり当協会の松尾 浩技術安全委員長は「現場の空気を感じ、普段学校では学べない活きた技術を見て、聞いて、考えて、感じていただきたい」と呼びかけました。



松尾 委員長



大竹 課長

その後、現場代理人の(株)関電工 大竹 伸一課長より、計画概要や当日の工事予定、見学のルートなどについて説明を受け、見学する現場へ移動しました。

最初に建設が進むビル全体を外側から見学し、18階の電気室に移動。8月に入ってから搬入されたキュービクルについて、盤毎に納められる機器や役割などについて説明を受けました。

続いて7階のオフィスフロアへ移動。分電盤や普段は見ることの出来ない天井内の配線、取り付けられたコンセント、スイッチなどを見学しました。工事が行われている2階のメイン電気室でも整然と据付けられたキュービクルを見学、防火シャッターや資機材昇降用の工事用エレベーターなど、次々と見学しました。



防火シャッターや関連設備の説明を受ける

見学会を終えた生徒は「電気は『街に便利さを届ける』というイメージを持った」「実際に現場を見て、学校で学習していることが形になって見えて良い学びだった」「電気工事は堅実、責任感ある仕事だ」などの感想が寄せられました。

シーケンス制御の基礎【実技】講習会



令和7年9月11日(木)、入社1年から5年程度の電気設備工事実務者を対象とした「シーケンス制御の基礎【実技】講習会」が(株)北海電工の協力のもと、会員企業から3名が参加し、同社の本店講堂にて開催しました。

この講習会は、実技講習会として例年、開催しています。開会にあたり当協会の長内事務局長は「シーケンス制御の基礎について、模擬制御装置を用いたより実践的な内容となっている。電気工事の技術者として、身に付けておくべき必要な基礎的技術の一つであり、今後の技術力や品質向上につながるよう積極的に取り組んでいただきたい」と参加者に呼びかけました。

その後、講師である(株)北海電工電設工事部マネージャーの川口 博氏のほか、同社のスタッフにより講習会は進められました。

午前中のカリキュラムでは、制御盤製作に必要な知識と図面を理解するため、パワーポイントにより単線結線図や展開接続図、制御機器や部品などについて一部実技も加え講義を受けました。

午後からは、今回の目標である「フロートレススイッチを用いた手動・自動切替回路によるポンプの運転制御」について理解を深めるため、講師から適切なアドバイスや指導を受けながら結線図を基に配線作業が行われました。

配線作業後は、ブザーによる配線とシーケンスの正常性を確認するとともに、高架水槽給水方式をイメージしたポンプ運転制御の模擬装置による動作検証を行い講習会は終了しました。



指導を受けながら配線作業をする参加者

講習会終了後のアンケートでは、「現在携わっている現場では、シーケンス図を見るので勉強になった」「シーケンス制御にここまで深く関わることがないので、今後のためになった」との声が受講者から寄せられました。

【カリキュラム】

- 午前の部
 - ・単線結線図、ブロック図と展開接続図について（講義）
 - ・制御機器、部品について（講義+実技）
 - ・三線結線図、組立図と接続図について（講義）
- 午後の部
 - ・配線作業（実技）
 - ・ブザー・シーケンスチェックと動作確認（実技）

令和7年度 北海道と設備4団体による意見交換会



持続的な受発注体制の確保を！

令和7年8月19日(火)、北海道電気会館において、当協会、北海道電気工事業工業組合、(一社)北海道空調衛生工事業協会、北海道管工事業協同組合連合会の設備4団体は、北海道建設部建築局と設備工事の持続的な受発注体制を確保するため、設備工事の諸課題について意見交換会を開催しました。北海道建設部建築局からは飯沼 善範局長、鈴木 伸広施設整備・脱炭素化担当局長をはじめ10名が参加しました。

当協会からは藪下会長他6名、4団体総勢23名が参加し、現状の認識共有と現在や将来の課題解決に向け意見を交換しました。

開会にあたり(一社)北海道空調衛生工事業協会の池田 薫会長は「技術者、技能者の人手不足は全



池田 会長

国的な建設業の倒産件数増加傾向も踏まえ、今後も厳しい状況に置かれている。将来の担い手確保や人材育成において、建設キャリアアップシステムの導入や生産性向上の取

り組み、働き方改革、脱炭素

ならない。本日、設備4団体は、人数を絞って参加している。より理解を深め合う有意義な会となるよう祈念する」と挨拶しました。

続いて、北海道建設部建築局飯沼 善範局長は「担い手不足、人材育成など、業界が抱える課題に対して道としても、遠隔臨場、週休二日工事の実施による長時間労働の是正、建設キャリアアップシステム就業者の処遇改善、発注時期の平準化による適正な工期設定など、様々な取り組みを行って



飯沼 局長

いる。これらの取り組みを通して、建設業の魅力向上を図り、将来を担う若者、子どもたちが夢を持って業界に入ってもらえるよう引き続き取り組んでいく。本日は、受発注者が抱える様々な課題について、双方の理解が深まり有意義な会となるよう忌憚のない意見交換をよろしく願います」と挨拶されました。

次に計画管理課の池田 美穂課長補佐より「北海道の営繕行政の取組み」について、建築整備課の三上 覚史課長補佐からは「令和7年度営繕工事」について説明がありました。

この後、4団体から業界の持続的な発展に向け、以下の事項を要望しました。

【共通事項】

1. 現場経費の加算について
 - ①建物を複数工区に分割した工事の経費加算
 - ②若手技術者を併任するための育成費用加算
 - ③熱中症対策の経費加算
2. 労務費の増額について
3. 資材費の輸送費転嫁について
4. 完成日の設定について
5. 入札制度の総合評価方式について
 - ①入札参加資格審査期間の短縮について
 - ②「地域建設業経営環境評価」について

【機械設備工事】

1. 設計労務数量の提示について
2. 工程表の提示について
3. 配管の継手価格について
4. ステンレス管・加工管の採用

その後、質疑応答が行われ、北海道からは、要望事項に対するコメントと基本的な考え方が示され、認識の共有と相互理解を深めました。

最後に北海道電気工事業工業組合の小野寺 涼一理事長より挨拶があり、意見交換会は閉会いたしました。

《 電気設備団体からの要望 》

1. 電線価格の相場変動について

世界情勢により、銅相場の価格が大きく変動するため、電線・ケーブルは発注段階での実勢価格を採用していただきたい。

2. 施工写真の撮影について

工事写真の機材は、「JIS規格が確認できるように撮影する」とありますが、事前に提出する「使用機材一覧表」で、資材名・メーカーの確認が可能となっております。つきましてはJIS規格品写真の省略をご検討願います。

3. 照明器具のリース工事について

国（北海道開発局）や市町村では、近年自治体管理施設の照明器具を、LED化にする案件についてリース会社と契約する事例が増加しております。その結果、地元電気工事会社が、リース会社から労務提供のみを請負う契約形態となる事例も見受けられます。北海道として、今後の同案件に対しては、従来通り地域の地元電気工事会社への発注をお願いいたします。

4. 耐震措置の価格転嫁について

耐震措置工法の材料（鋼材類）、取付費を発注価格にご考慮いただきますよう、お願いいたします。

5. 製作物資機材の納期考慮について

資機材の納期（特に製作物）について、建設部側でも状況を把握したうえで、工期の設定をお願いいたします。

6. 省施工雑材料の採用について

働き方改革の推進に向けて、在来工法よりも省施工により生産性向上を図るため、省施工型電設資材（差込型ジョイントボックスや、ジョイントボール等）の採用を、ご検討願います。

7. 変圧器の仕様変更対応について

新基準の油入変圧器において「トッランナー2024」が、更に高効率化となり現行品より外形が大きくなる点について今後の受変電設備改修時における対応をお聞かせ願います。

地 方 取 材

～釧路市唯一の酒蔵～

ふくつかさしゅぞう
『福司酒造』を訪ねて！



福司酒造株式会社 代表取締役社長 ^{やなせ} 梁瀬 ^{ゆきひろ} 之弘 氏

1919（大正8）年4月、北海道釧路市で酒類や食品などの卸売業として創業した「福司酒造株式会社」は、1922（大正11）年から代表銘柄「福司」の醸造を開始しました。以来、道東地域での販売が9割を占める地域密着の酒蔵として歩んできました。

日本酒の消費が大きく落ち込む中、地域での酒造りを守るべく、2023（令和5）年にはセカンドブランド『五色彩雲^{ごしきのくも}』を造り上げました。これまでのエピソードやブランドへの思いなどについてお聞きしました。



日本酒業界の斜陽な時代

木村委員長（以下：木村）：北海道電業協会は、北海道に店舗を有する電設工事業者の集合体です。その中の組織として広報委員会がありますが、広報委員会は、協会スローガンの啓蒙や電気設備工事のイメージアップを目的として、年に3回会報誌を発行しています。そこでは地域の話

題の提供や、地域に根差した企業・団体なども取材させていただいております。

今回は釧路電業協会の新妻会長よりご紹介をいただき、福司酒造の梁瀬社長を取材させていただくこととなりました。どうぞよろしくお願ひします。

梁瀬 之弘氏（以下：梁瀬）：よろしくお願ひします。

木村：ではまず私からお聞きします。昔は釧路には10店舗ぐらい酒蔵があったそうですが、今は福司酒造さんが釧路で唯一の酒蔵で、創業106年を迎え、日本酒業界にも斜陽な時代がありご苦労されたことも多かったと思います。まずは、会社の概要とご苦労されたことなど、今までの経緯についてお話をお聞かせください。



木村 委員長

梁瀬：そうですね。苦労したのは、戦後ではないかなと思います。戦争中っていうのは、お米は国から配給されます。

また、強制的に企業の統廃合があり、酒屋も何軒もありましたが、1つの町に1つになってしまいましたが、うちはありませんでした。お米も当地に来ていましたし、珍しいことに一度も造らなかったことはなかったです。しかし話を聞くと戦後は、やっぱりお米がなくなって、苦労したようです。

木村：そうですね。戦後はお米を含めて全ての物が不足して、ご苦労されたと思います。最近では人手不足とか、歴史ある酒蔵は、人を雇ってすぐ出来る仕事ではなく、10年、20年と時間をかけて育てていかなければなりませんよね。

梁瀬：そうですね。つい20年ぐらい前までは、杜氏という酒造り専門の人がおりまして、その人に任せて、あとは働き手が、言われたことをやっていく。長い間、酒屋はそうやってきました。

木村：そうですか。

梁瀬：「これからもそうなるのかな」と思いましたが、やっぱりそうはなりません。何故かという、日本酒の消費は、昭和47、48年をピークに、そこからもう右肩下がりになり、今はだいたい48年ごろの4分の1までに減りました。



梁瀬 社長

木村：そんなに減ったんですか。

梁瀬：はい。20年ほど前から、自分の社員で賄っていかなければならないということに必然的になりました。意外とそれをやってみたら、出来ることも分かりました。

基本的に酒造りは、温度制御が一番なんです。杜氏は経験上それを知っています。一子相伝みたいなものですね。腕のいい杜氏は、そのポイントの温度や米の質の見分け方を知っています。

今は、東京農業大学に醸造学という専門の学科があり、そこでは昔の経験ではなく、科学的根拠に基づいて酒造りを行っており、当社にも卒業生が居ります。

木村：そうなんですか。

梁瀬：やっぱり酒造りに興味のある人間が当社にやって来ます。酒は冬の間しか作らないので、だいたい11月の初めから、私たちはそう4月いっば

いぐらいまでの半年間しか仕事をしません。いわゆる変形労働です。だから夏場は、ほぼ休みになるので、「それでいいよ」という方、そういったライフスタイルが自分に合っている方が希望して来ます。

木村：そうなんですか。職種が違うところも違うのかなって感じました。

酒造りへの思いと信条

嶋津委員 (以下：嶋津)：のちほど商品につきましては伺いますが、福司酒造さんでは地域色に富んだ商品を生み出されています。酒造りに当たっての思いや信条について、お聞かせください。



嶋津 委員

梁瀬：酒屋はもともとその地域に密着しているものなんです。その地域の神社のために作っているんです。

嶋津：神事、神酒ですね。

梁瀬：そうですね。だから地域に密着していなくてはならないし、地域が発展していかなければならない。そこに付帯して「愛されるような品物を造っていきましょう」ということです。

「海底力」発想の原点

松岡副委員長 (以下：松岡)：福司酒造さんの有名なお酒「海底力 (そこちから)」は、平成18年に誕生しましたが、太平洋の海底坑道を利用して貯蔵・熟成させた、世界で初めての日本酒とお聞きしております。このお酒を作ろうと思ったアイデアや発想の原点だとか、そのお酒の特徴などを教えてください。

梁瀬：これは結構ヒット作でして、当時としては値段も高価格に設定しました。新商品を出していくと、この当時は真似されます。必ず売れるものは真似されるんですよ。その結果、大手企業のように販売力を持っているところが勝っちゃうんですよ。

松岡：特許扱いとか出来ないのですか。

梁瀬：名前は出来ますが、他はありません。こういう発想っていうのは、小さな蔵が必ず始めるのです。だけど、みんな大手企業にやられてしまう。だから当社は、しぼりたてがあったのですが、これは全国で3本の指に入るぐらい早く販売しましたが、今でも造っていますけど、やっぱり大手企業にやられてしまいます。

松岡：そうなんですか。

梁瀬：また、生の酒っていうのは流通出来ないって言われていたんですよ。まあ北海道は寒く、店先でもマイナス。だから出来るし生貯蔵酒っていうのも出したんです。吟醸酒もそうです。

こうして全国の小さな蔵が色々出して来るのですが、力のある大きいところに真似されてしまう。真似されないためにここでしか出来ないオリジナルを造りたいと考えて、炭鉱が思い浮かびました。



手前：大塚 副委員長 奥：松岡 副委員長

松岡：なるほどですね。

梁瀬：坑内掘りをしてるところは釧路だけですから。友達に太平洋炭鉱の社長がいましたので相談したら、「面白いね」ということになり、また街づくりの一環として経済産業省へ掛け合ったところ理解いただき、実現いたしました。

大塚副委員長（以下：大塚）：「海底力」が販売されるのは2月か3月ぐらいですか。

梁瀬：3月です。

大塚：だから札幌の酒屋さんとかで見かけるのは春先なんですね。

梁瀬：そうです。

大塚：いつもあるのかなと思って行くと、置いてないのでやっぱり、それだけは時期的なものなん

ですね。

梁瀬：炭鉱の中に入れるので、貯蔵場所に制限があります。

セカンドブランド「五色彩雲」

大塚：そうなんですね。ホームページを拝見しましたら、「地酒は土地の風土と共にあり、人々の暮らしに寄り添うもの」という言葉を拝見して、地域に密着した活動をされているんだと非常に感銘を受けました。

私もこちらにお伺いする前は、杜氏さんがいて、肌感覚でお酒を造っているのかなって思っていました。そういった技術力だけではなく、データ管理とか、そういう肌感覚は数字に置き換えて、どんどん製造されているような感じを受けました。そして、御社製造部の若手の蔵人によって五色彩雲（ごしきのくも）というブランドを立ち上げていらっしゃいますが、この若手で、そういうお酒を造るという取り組みは、どういうメッセージなのかと思ひまして、お話をお伺いしたいなと思います。



梁瀬：実は私もよく分かっていません。やっぱり若い方の感覚なんですよ。このローカルにいたら、ローカルのままなんです。福司はファーストブランドで、五色彩雲はセカンドブランドです。

ファーストブランドとは違いを出しています。香りがよくて飲みやすいのではなく、味がある。評価の仕方がちょっと違って、好きな方には好まれる。そういう感じのお酒なんです。うまく言えないんですけど。

五色彩雲は4種類出していますが、4種類全部違います。酒は基本黄麴を使いますが、白麴を使っ

た珍しい独自の作り方をしているんですけど、その麴を使うと酸味が出るんですよ。ワインと勝負、世界に出すのであれば、やっぱり食中酒なので、飽きない酒。日本酒は甘みがあるので、どうしても飽きちゃうんです。もともと塩辛い食べ物を食べてきた文化でしたから。

木村：確かにそうですね。

梁瀬：ご飯もそうです。

木村：糖分が強いですからね。



『五色彩雲』
(Goshiki no kumo)

梁瀬：そうです。食べる物が、どんどん変わって来ているじゃないですか。油を使ったものとか、そういう物になって来て飲み飽きしてしまう。ワインは酸味があるので、「その酸味を出そう」という感じです。だから全部味が違います。

白いラベルは、低アルコール酒。青いラベルは昔の吟醸造りを意識したもの。赤いラベルが山廃でたんぱく質や脂質に合うように。黄色いラベルは酸味が特徴で、白ワインをイメージして造っています。



大塚：今風で、おしゃれなラベルですね。

梁瀬：都会で戦うには、これしかないと思います。先ほど白いのは低アルコールと言いましたが、普通原酒は、だいたい18度ぐらいですけど、

これは15度ぐらいなんです。何で14度、15度の原酒がいいかと言うと、酒って水で割るんです。このお酒は、そのときに味が崩れません。

大塚：そうなんですか。

梁瀬：一元的な造りではなく、色々と特徴を持った都会でちょっと戦えるような、そういう感じで造っております。

大塚：昔の人は、アルコール度数、日本酒度がなくて、辛口のお酒がうまいんだって言いますが、私はどちらかというとな酸度が高いお酒が好きです。そのせいか「それは酒飲みじゃない」と言われますが、この酸度というのは、どのように造り出されているのでしょうか。

梁瀬：酸度とは、酸っぱさではないです。日本酒度は比重が低い、マイナスになると甘くなりますが、必ずしもプラス10のお酒でもそんなに辛くないものもあります。その中に含まれている、酸度が関係しています。酸度は、一部クエン酸も関係していますが、そのほとんどがアミノ酸で、それが高いと味が濃く感じます。

大塚：濃いですね。色味も濃い感じですよ。

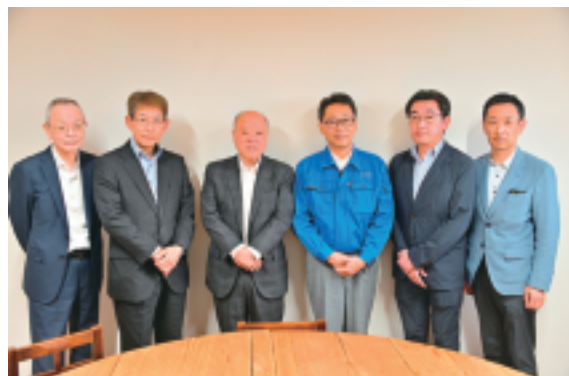
嶋津：うま味成分みたいな感じですね。

梁瀬：そうです。好みはそれぞれみんな違います。

大塚：いや、本当にそうですね。

梁瀬：だから少しずつ、お酒の好きな人の基準が変わって、「選ぶ時代」になっています。

木村：時間となりました。本日は貴重なお話をいただきありがとうございます。



取材を終えて

左から

嶋津委員、木村委員長、新妻会長、梁瀬社長、松岡副委員長、大塚副委員長



誰もが安心して暮らせる 豊かで 活気あふれるまち あしよろ ～足寄町～

足寄町長 渡辺俊一



■ まちの概要

足寄町は明治12年に開拓のくわが下ろされて以来、美しい自然と豊かな緑に恵まれた農業と林業の町として発展を続け、平成30年に開町110年という節目を迎えました。

十勝の東北部に位置し、行政面積1,408.04km²を擁し、豊かな森林資源と地理的条件を活用した農林業を基幹産業としています。代表的な農作物としてバレイショや小麦、てん菜、豆類などが挙げられ、近年では多彩な種類の野菜栽培も行われています。

また、チーズなどの乳製品や螺湾^{らわん}ブキを使った山菜製品、温泉熱を利用したハウス栽培のイチゴなどは「あしよろブランド」として全国的にも知名度が高く、付加価値を高める商品の開発も進められ、まちの発展の原動力となっています。

■ まちの特産品

◎ 螺湾ブキ

足寄町の東に位置する螺湾地区には「日本一大

きなフキ」として全国的にも有名な「螺湾ブキ」が自生しています。

大きいもので高さ2～3mに達し、6月上旬から7月上旬に旬を迎える螺湾ブキは、爽やかな山の風味と心地良いシャキシャキとした食感を味わうことができます。

あくが少なくミネラルが豊富で食物繊維も多く含まれていることも特徴です。平成13年には北海道遺産に認定されました。



螺湾ブキ

■ ふるさと納税

足寄町は平成26年からふるさと納税の返礼品を贈呈しています。令和6年度には、全国にお住まいの方々から2,995件、8,022万円の寄付をいただきました。いただいた寄付金は介護人材確保対策事業、子育て応援出産祝金贈呈事業など寄付をされた方々の意向に沿って町の発展に寄与する事業に活用しています。



返礼品

(合同会社あしよろチーズ工房チーズ5種セット)



◎ 足寄町ふるさと納税特設サイト

■ 足寄町の見どころ

◎ オンネトー地区

阿寒摩周国立公園の南西部に位置する雌阿寒岳とオンネトーは、度重なる火山噴火によって築かれ、その火山と湖が織りなす自然豊かな風景は多くの人々を引き付けています。

オンネトーはこの地区の見どころの一つで、湖の色が天候や風、時間帯によって変化することから神秘の湖とも呼ばれています。湖畔周辺には散策路が整備され、原生林に囲まれた手つかずの自然を満喫することができ、西側にある展望デッキからは雌阿寒岳と阿寒富士の両方を背景にした景色が一望できます。周辺にはオンネトー湯の滝、登山の起点にもなる国設野営場があります。

令和4年からは、野営場に隣接してオンネトー休憩舎がオープンし、観光案内や軽飲食の提供を行っています。

◎ 里見が丘公園

市街地に位置する里見が丘公園は大型遊具や足湯、運動施設、町営温泉浴場などがあり子どもから高齢者まで多くの方に親しまれる憩いの場となっています。



里見が丘公園

◎ 足寄ふるさと盆踊り・両国花火大会

毎年8月15日に開催している足寄ふるさと盆踊り・両国花火大会は、約2万5千人もの人が訪れる足寄町で最も大きな祭りです。ステージショーや町内飲食店等によるグルメが来場者を楽しませ、8,000発の花火が夏の夜空を彩ります。

■ 足寄町ホームページ

◎ <https://www.town.ashoro.hokkaido.jp>



● 豆知識 ～ 足寄町 ～

足寄町は、約1,400km²の面積を持ち、町としては日本一広く、市町村全体でも北見市に次ぐ道内2番目、全国でも6番目の広さを誇ります。2005(平成17)年2月に岐阜県高山市が周辺市町村を編入するまでは、日本最大でした。



羊蹄山（蝦夷富士）

■ 電業協会の概要

- ・ 設 立：昭和53年 4 月
- ・ 会員数：18社
- ・ 人 口：後志管内 約19万 9 千人
(R 2. 10. 1 国勢調査より)
- ・ 自治体数：後志管内 1 市13町 6 村
- ・ 面 積：4, 306km² (北海道の約5. 2%)

後志電業協会は、昭和53年設立から48年、後志地域20市町村における電気設備工事業者の団体として、電気設備の施工・維持管理などを通じて人々の生活を支えてきました。

現在、会員会社は18社。電気工事に関する地域皆さまのニーズに的確に対応出来るよう、専門的な技術力向上に取り組んでいます。

■ 電業協会の事業活動

《安全の取り組み》

後志電業協会での取り組みとしましては、熱中症対策マニュアル・メンタルヘルス対策マニュアルなど、会員各社との共有を図り正しい知識や意識の向上に努めています。

例年行っている安全パトロールでは、後志管内の現場の中から役員が主体となって実施しております。パトロールの際には、「安全な環境づくり・

リスクアセスメント・安全教育と意識の向上」を目的に行っております。

安全大会は独自では行っておりませんが、小樽地方電気工事協同組合主催の安全大会に参加しております。これからも会員各社と共に労働災害を無くす安全な環境づくりに向けた取り組みを行って参りたいと思います。

《分離発注要請活動》

例年行っている分離発注の要請活動については、各支部担当者と事務局長が市町村役場の担当部署へ要請文書、分離発注推進パンフレット、後志電業協会名簿を持参し陳情を行っております。管内では、大半の市町村において分離発注を頂いておりますが、一部建築付帯中心となっている自治体もありますので、今後も引続き分離発注の採用に向け、陳情して参りたいと考えています。

《その他》

毎年度、北海道開発局、小樽開発建設部および協会役員の一部と小樽開発建設部に実績のある会員、これから参加を検討している会員をメンバーとして、意見交換会を行っております。

今年度は7月に開催され、これからの発注予定の説明や電気通信事業における意見交換を行いました。意見交換の中で技術者不足・労務者不足の話題が多く、今後お互いの考え方や対応について活発な意見交換が行われました。今後も受注者・発注者双方の認識や情報を共有する貴重な場となるように努めて参ります。

■ 管内のおすすめスポット

後志地域のおすすめスポットと言えば、小樽運河やニセコのスキーと思われがちですが、神威岬の絶景と積丹ブルーの海、ニッカウキスキー余市蒸溜所でウイスキーを味わい、ニセコでアクティビティを楽しむなど、自然・グルメ・アクティビティが豊富です。各地の道の駅では地元の特産品を味わうことも出来ます。最近注目を集めるス



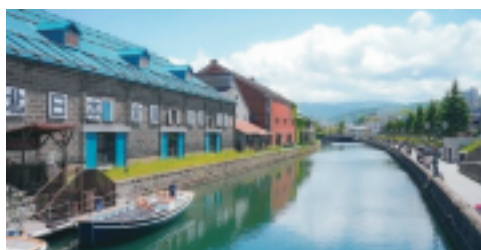
神威岬

ポットは、小樽美術館。1枚数億円する絵画も展示されており見応え満点です。余市町では、複数のワイナリーが造られ、世界でも有名なワインに触れることも出来ます。古平町では「タラコミュージアム」と、このように後志地方は、季節を問わず様々な楽しみ方が出来るエリアです。

さあ、あなただけの後志の旅を見つけるのも良いのでは！



余市ワインブドウ畑



小樽運河

■ 構成会員紹介

株式会社 おお え でん き 大江電氣

1966（昭和41）年の創業以来、50年以上にわたり地域の皆様の暮らしを電気で支え続けてきました。創業者の「誠実な仕事が未来を創る」という理念は、今も変わることなく私たちの中に息づいています。

長年にわたる実績で培ってきた確かな技術力と、安全第一の徹底した管理体制は、大規模な公共事業において高い評価をいただいております。その一方で、一般家庭のお客様には、小さなコンセントの修理や照明器具の交換など、どんなご依頼にも丁寧に対応し、お客様の暮らしに寄り添うことを大切にしています。

単に電気工事を行うだけでなく、地域社会の一員として、街の安全を守る活動にも積極的に取り組んで参ります。

これまでのご縁と信頼を大切にしながら、これからも地域の未来を明るく照らす存在でなければなりません。創業から変わらない「お客様第一」の精神で安心で快適な暮らしをお届け出来るよう努力して参ります。



株式会社 大江電氣社屋

◎ ホームページ
<https://www.fuji-iw.com/>



後志電業協会

〒045-0023

北海道岩内郡岩内町字相生80番地1 (株)富士電氣内



釧路市学校給食センター電気設備工事

◆ 取材概要

今回の「現場からこんにちは」は、広報委員会の地方取材活動の一環として釧路市に訪問し、釧路市学校給食センター電気設備工事（その1）（マツダ・三昭・新橋JV）および釧路市給食センター電気設備工事（その2）（東興・釧路電工・三東JV）の現場を担当されたマツダ・三昭・新橋JVの現場代理人 鈴木 孝司さんと東興・釧路電工・三東JVの現場代理人 木村 佳正さんのお二人にお話を伺いました。

◆ 工事概要

◎ その1

施工会社：マツダ・三昭・新橋JV

工期：令和5年7月3日～令和7年1月24日

【工事規模】

RC造 地上2階建 延床面積5,331㎡

【工事種別】

電灯幹線設備、電灯設備、受変電設備、構内配電線路設備、昇降機設備、小荷物専用昇降機設備

現場代理人：マツダ電気(株) 鈴木 孝司

◎ その2

施工会社：東興・釧路電工・三東JV

工期：令和5年7月3日～令和7年1月24日

【工事規模】

RC造 地上2階建 延床面積5,331㎡

【工事種別】

動力幹線設備、動力設備、音響設備、構内情報通信網設備、電気時計設備、呼出設備、一般放送設備、インターホン設備、弱電線路設備、テレビ共聴設備、監視カメラ設備、火災報知設備、防犯・入退室管理設備、防火戸制御設備

現場代理人：(株)東興電気工業 木村佳正

◆ 新給食センターの概要

これまで、釧路市小学校給食センター、釧路市中学校給食センター、阿寒町学校給食センター、音別小学校調理場と4つの施設で給食調理を行って来ましたが、新給食センターの完成運用により、釧路市内全ての小・中学校や義務教育学校40校（小学校25校、中学校14校、義務教育学校1校）へ統一した献立により給食を提供出来るようになりました。

また、給食施設の一元化を契機に、音別産の「落」や阿寒湖産の「わかさぎ」、釧路産の「昆布」や「タラ」など、地元食材を活用した「ふるさと給食」の充実が図られました。

これまで地区ごとに設定されていた給食費も、

最も安価な音別地区の額に統一され、保護者負担軽減にも配慮されています。

新給食センターの給食調理能力は、1万1,000食/日（うちアレルギー対応食 100食）となっています。

当工事は、電気設備が電灯幹線設備等「その1」と動力、弱電設備等「その2」に分かれており、その他、別途工事として建築主体工事、管設備工事（その1、その2、その3）、外構工事と電気設備を含め8社と非常に多くの業者が工事に携わっていました。

そのため、施工前の事前打ち合わせを厨房機器メーカーも含め綿密に行い、工期が非常にタイトだったこともあり図面などの精査を慎重に行い、各工種との調整に大変苦慮した分、施工はスムーズに進めることが出来たとのことでした。



新給食センターの厨房

◆ 食品を扱う施設で工夫、苦勞したこと

◎ その1工事

厨房エリアでは食品の安全性を確保するためHACCP基準に準じた照明器具（防水型、飛散防止型、アクリルカバー付き）を採用し、厨房機器の排熱や照度等を考慮しながら照明器具の配置検討をしました。

また、施工経験のない昇降機設備工事も含まれており、分からないことも多く大変苦慮したが大変良い経験になったとのことでした。

◎ その2工事

電気室の天井が非常に高く、キュービクルへの配線を、当初設計の天井引込から埋設配管へ変更したが、防火区画やケーブルを取り込むスペースが少なく、検討作業に時間がかかり苦勞したとのことでした。



新給食センターの電気室

この度は稼働中の施設ではありましたが、釧路市教育委員会教育支援課給食係 二瓶 祐介係長には施設の運用状況のご説明とご案内をいただき大変ありがとうございました。



また、竣工後の現場にも関わらず、現場視察の機会を設けていただきました、北電工業(株)の新妻 繁市社長、(株)東興電気工業の東堂 光春社長、マツダ電気(株)の加藤 綾専務、そして、貴重なお時間をいただき、取材にも快く対応してくださった、鈴木様、木村様には大変感謝しております。本当にありがとうございました。



- その1工事を担当した
マツダ電気(株) 鈴木 孝司さん（手前）
- その2工事を担当した
(株)東興電気工業 木村 佳正さん（奥）

取材：広報委員 大塚 雅史、嶋田 幸規

🎳 ボウリング部会 🎳

17会員25名が参加！『熱投』『珍投』『暴投』？！



プレー前に全員集合！



優勝した尾形さん（左）

ボウリング部会は7月11日(金)、GiGO BOWLノルベサにおいて、今年度1回目の部会を開催しました。

当日は17会員から25名が参加。ボウラー仲間の競演に歓声上がり、爽やかな疲労感とともに親睦、交流が図られました。次回は10月31日(金)に開催します。多くのご参加をお待ちしております。

<総合成績>

順位	会社名	氏名	1G	2G	HD	TOTAL
優勝	協信電気工業(株)	尾形 武志	126	193	10	339
準優勝	(株)北海電工	老松 佳紀	107	181	18	324
3位	末廣屋電機(株)	長土居 亮	162	153	4	323
4位	北電力設備工事(株)	有本 純	111	143	30	314
5位	(株)北海電工	内田 勝久	128	121	30	309
6位	北盛電設(株)	森崎 亨一	99	148	26	299
7位	(株)北海電工	木村 裕介	125	137	18	298
8位	拓北電業(株)	尾崎 健太	122	113	30	295
9位	(株)きんでん	足利 祐典	145	140	0	285
10位	北海道タツワ電気(株)	坂本 淳	100	122	30	282

🎤 歌唱部会 🎤

楽しい『歌』と『おしゃべりの場』を提供！！

今年度第1回目の部会を8月29日(金)『アンジェ』において16名の参加をいただき開催しました。8月の最終週にもかかわらず、今年の夏を象徴するかのような暑い夜ではありましたが、それを上回る熱気で会場は大いに盛り上がりました。

ママさん手作りの料理と差し入れの旨い日本酒・焼酎もあり、あっという間の2時間でした。ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。

次回開催は2月を予定しておりますので、多くの皆様に楽しい歌とおしゃべりの場を提供できるよう幹事一同努めてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。



宴会には欠かせない存在です。
藤井ボウリング部会長

歌唱部会長 大塚 雅史
スタッフ一同





ゴルフ部会

ゴルフ部会は、第1回を6月11日、第2回を7月15日に開催。両日とも30名を超える参加をいただき、グリーン上の熱戦が繰り広げられました。表彰式では、プレーを振り返りながら和やかに談笑し、会員相互の親睦が深められました。



■ 第1回 総合成績 2025年6月11日(水) 参加者：39名 (28社) 札幌南GC (駒丘)

順位	会社名	氏名	OUT	IN	Gro	HD	NET
優勝	(株)北弘電社	泰地 哲也	39	41	80	12	68
準優勝	(株)データベース	庄田 修身	49	51	100	32	68
3位	橋本電気工事(株)	細野 隆平	47	48	95	25	70
4位	北札幌電設(株)	豊 友祐	50	47	97	26	71
5位	(株)北海電工	内田 勝久	47	47	94	22	72
6位	アイ・リンク(株)	本間 勝行	46	47	93	20	73
7位	振興電気(株)	高木 新吾	51	52	103	30	73
8位	旭日電気工業(株)	佐藤 信悦	40	43	83	9	74
9位	東和電商(株)	須藤 光徳	44	45	89	15	74
10位	山口電気機械工務所(株)	山口 邦治	47	47	94	20	74

＜優勝者＞
泰地 哲也さん



■ 第2回 総合成績 2025年7月15日(火) 参加者：32名 (23社) 札幌エルムCC

順位	会社名	氏名	OUT	IN	Gro	HD	NET
優勝	旭日電気工業(株)	伊藤佑太郎	48	49	97	36	61
準優勝	北海道GSエアサービス(株)	藤田 真一	46	48	94	30	64
3位	東光電気工事(株)	釜石雄一郎	45	44	89	28	61
4位	振興電気(株)	高木 新吾	48	49	97	30	67
5位	札幌日信電子(株)	松井 良一	39	41	80	12	68
6位	北盛電設(株)	大塚 雅史	47	39	86	18	68
7位	大成電気(株)	小野寺涼一	42	46	88	20	68
8位	(株)サンテック	金子 亮一	46	49	95	25	70
9位	旭日電気工業(株)	佐藤 信悦	40	41	81	9	72
10位	日本電設工業(株)	小林 直樹	48	46	94	22	72

＜優勝者＞
伊藤佑太郎さん



野球部会



プレー前に全員集合！



ナイバッチ！きんでん 足利さん

野球部会は、令和7年9月12日(金)西区福井のリゾートサッポロにおいて、今年度の事業活動として「営業マンソフトボール大会」を開催しました。

ソフトボール大会には、会員企業16社から25名の営業マンが参加。年代毎に2つのチームを編成し、青空広がる秋晴れのもとプレーボールがかけられました。数日後の筋肉痛や高度なテクニック？に冷やかしの声が飛び交う中、各社営業マンは、急造チームながら白熱した元気なプレーを展開しました。

その後の焼肉を囲んだ懇親会は、三共電気工業(株) 小林 勇治専務の乾杯で開宴。その日のプレーや日頃の仕事などについて話に華が咲き、来年の再会を楽しみにしながら終了しました。参加された皆さん、お疲れさまでした。



小林 専務

～シリーズ～ 「私のいちおし」

島津電設株式会社

代表取締役 嶋 津 博

映画の好みは十人十色。映画の創成期がだいたい20世紀初頭なので、今、現在まで制作された映画は約100万本と言われている。ここ数年、映画館には行ってないが、その数えきれないほどある映画の中で、劇場まで10回以上足を運んだ忘れられない映画がある。

今回の「私のいちおし」は映画。有名な映画なので見られている方もいらっしゃると思いますが、まずは「The Way We Were」。邦題は「追憶」。



引用元：LINEヤフー

バーブラ・ストライサンドとロバート・レッドフォードの絶頂期1973年公開。描かれている年代は今から約90年前の第二次世界大戦前夜の設定。政治活動に燃える女子大生とノンポリのイケメン学生の恋愛映画。アメリカ映画が最も輝いていた頃の映画だと思う。何よりも品がある。時代背景を考え当時の日本と比べると、雲泥の差であることが分かる。

自分のお気に入りのシーンは、冒頭のBarでの再会シーン。バーブラとレッドフォードの、通りでの外飲みのシーン。バーブラのアパートからレッドフォードに電話をかけるシーン等々である。最大のお気に入りはラストの再会シーン。この映画だけで1ページが書けるので、1978年公開の「The Deer Hunter」に移る。

主演はロバート・デ・ニーロ。また名優ジョン・カザールの遺作である。ベトナム戦争や彼らのその後を描いた映画だが、その重厚さに胸を打たれた。この映画は例年4月のアカデミー賞で作品賞をはじめ5部門を受賞した。本作の凄みや重

みは経年劣化することなく魂を揺さぶる。友人の葬儀の後、酒場に集まった一同が「ゴッド・ブレス・アメリカ」を歌いながら乾杯するラストシーン。当時のアメリカの悩める若者たちが描き出され、胸がつまる。

また、挿入曲も秀逸でテーマ曲「カヴァティーナ」は誰もが一度は聞いたことがある名曲。今でも、この曲を聞くだけで胸が熱くなる。

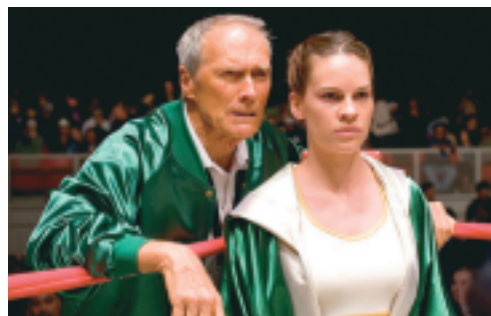


三作目は、2004年公開の「Million Dollar Baby」（ミリオンダラー・ベイビー）。これもヘビーな映画です。主演はクリント・イーストウッドとヒラリー・スワンク。監督もイーストウッドが手がけている。

アメリカンドリームを夢見る女子ボクサーを描いた作品。家族からも愛情を受けたことがない女性と、家族にすら愛情を見せたことのない男性との間に芽生えた愛の物語。2人が命をかけて守った魂は、永遠に耀き続ける。

彼女が試合の時に着ていたガウンには「Mo Chuisle」（モ・クシュラ）*の刺繍が入っているが、自分も一番大切なギターをモ・クシュラと呼んでいる。

* ああ、私の心臓の鼓動よ…ゲール語の親愛表現の短縮



まだまだ、紹介したい作品はあるが、映画はやはり映画館で見るものだと思っている。ビデオみたいに途中で止めたりトイレに行ったりは出来ない。集中して映画の中に入って見たいものです。それが製作者や役者さんに対する「お礼」だと思う。たまには時間を作って劇場にいきましょう。

業界だより

会員名	異動事項	変更後(新)	変更前(旧)
東光電気工事株式会社 北海道支社	職位変更 (4月1日付け)	執行役員支社長 末田 晴久	支社長 末田 晴久
住友電設株式会社 北海道支店	会員代表者 (6月1日付け)	支店長 吉岡 智己	支店長 島田 光優
北関電気工事株式会社	会員代表者 (6月12日付け)	代表取締役社長 野中 譲	代表取締役社長 岡崎 義勝
株式会社 データベース	会員代表者 (6月25日付け)	代表取締役 清重 正樹	代表取締役 大森 康弘
東邦電気工業株式会社 北海道支店	職位変更 (6月25日付け)	執行役員支店長 川岸 浩人	支店長 川岸 浩人
岸野電気株式会社 札幌支店	会員代表者 (7月1日付け)	支店長 花輪 重雄	執行役員支店長 中村 崇裕

◆ Conference reports ◆

理事会・三役会議・委員会報告

理事会

◇ 令和7年6月17日(火) 札幌グランドホテル

【第2回議題】

(協議事項)

1. 令和7年度役員会等主要行事の日程について
2. 令和7年度役員・常設委員会の体制及び事業計画について
3. 電業協会及び電設協北海道支部の令和8年度定時総会日程案について
4. 令和7年度経営者懇談会・セミナーについて
5. 電設協本部文挾会長との意見交換会の開催について

(報告事項)

1. 電設協北海道支部への企業の新規入会申請について
2. 令和7年度「公共建築の日」及び「公共建築月間」の記念イベントにおける後援について
3. 会員の諸変更について

4. 令和7年7月～8月行事予定について
(その他意見交換)

◇ 令和7年8月26日(火)

北海道電気会館

【第3回議題】

(協議事項)

1. 令和7年度常設委員会体制の一部変更について
2. 令和7年度経営者懇談会・セミナーについて

(報告事項)

1. 電設協北海道支部への企業の新規入会申請について
2. 電設協本部新規入会申請の承認について
3. 電設協本部文挾会長との意見交換会について
(開催報告)
4. 令和7年度札幌開建電気通信事業に関する意見交換会について(参加報告)
5. 令和7年度技術系学校の電気工事会社就職状況調査結果について

6. 令和7年度技術系学校先生との意見交換会について（開催報告）
7. 令和7年度札幌市電気設備施工研修会について（開催報告）
8. 会員の諸変更について
9. 令和7年9月～10月行事予定について（その他意見交換）

三 役 会 議

◇ 令和7年6月12日(木) 北海道電気会館

【第3回議題】

（協議事項）

1. 令和7年度役員会等主要行事の日程について
2. 令和7年度役員・常設委員会の体制について
3. 電設協本部文挾会長との意見交換会の内容について
4. 令和7年度経営者懇談会・セミナーの開催日程等について
5. 令和8年度定時総会日程案について
6. 電気資材組合創立75周年・設立50周年記念式典への出席について

（報告事項）

1. 電設協北海道支部企業の新規入会について
2. 会員の諸変更について
3. 令和7年6月～7月行事予定について

（その他意見交換）

◇ 令和7年7月10日(木) 北海道電気会館

【第4回議題】

（協議事項）

1. 令和7年度北海道の建築工事に係る合同研修会について
2. 令和7年度「建設産業ふれあい展」への参加内容について

（報告事項）

1. 電設協北海道支部への企業新規入会申請について
2. 電設協本部文挾会長との意見交換会の報告について
3. 令和7年度札幌市電気設備施工研修会の開催について

4. 令和7年度札幌開建電気通信事業に関する意見交換会について
5. 令和7年度技術系学校先生との意見交換会について
6. 会員の諸変更について
7. 令和7年7月～8月行事予定について（その他意見交換）

1. 国土交通省「重層下請け構造の実態調査」への対応について
2. 電設協第7回「働き方改革」フォローアップ調査への対応について

◇ 令和7年8月8日(金) 北海道電気会館

【第5回議題】

（協議事項）

1. 令和7年度常設委員会体制の一部変更について
2. 令和7年度北海道と設備4団体との意見交換会について
3. 令和7年度経営者懇談会・セミナーの開催内容について

（報告事項）

1. 電設協北海道支部への企業新規入会申請について
2. 令和7年度札幌開建電気通信事業に関する意見交換会について（出席報告）
3. 令和7年度技術系学校の電気工事会社就職状況調査結果について
4. 電気工事業全国大会札幌開催案内への対応について
5. 会員の諸変更について
6. 令和7年8月～9月行事予定について

（その他意見交換）

◇ 令和7年9月5日(金) 北海道電気会館

【第6回議題】

（協議事項）

1. 令和7年度経営者懇談会・セミナーの開催案内等について
2. 令和7年度開発局営繕部との意見交換会の進め方について

（報告事項）

1. 令和7年度上期本部・支部事務連絡会議の出席報告について
2. 第46回建設産業交通安全全道大会への参加について
3. 令和7年度電設協会員大会（広島）の参加申込み状況について
4. 会員の諸変更について
5. 令和7年9月～10月行事予定について（その他意見交換）

総務委員会

◇ 令和7年6月5日(木) 北海道電気会館
【第1回議題】

1. 令和7年度総務委員会の体制（案）について
2. 令和7年度総務委員会事業実施計画（案）について
3. 令和7年度経営者懇談会の開催について
4. 令和7年度技術系学校先生との意見交換会の開催について
5. 令和7年度「建設産業ふれあい展」への参加について
6. 電設協本部文挾会長との意見交換会について
7. その他意見交換

◇ 令和7年9月10日(水) 北海道電気会館
【第2回議題】

1. 令和7年度経営者懇談会の概要について
2. 令和7年度開発局営繕部との意見交換会について
3. 令和7年度「建設産業ふれあい展」への参加案の一部変更について
4. 電設協本部文挾会長との意見交換会の開催報告について
5. 令和7年度技術系学校先生との意見交換会の開催報告について
6. その他意見交換

経営委員会

◇ 令和7年6月13日(金) 北海道電気会館
【第1回議題】

1. 電設協「第320回本部政策委員会」議事報告について
2. 分離発注要請活動実施結果について
3. 令和7年度経営委員会の体制（案）について
4. 令和7年度経営委員会事業活動計画（案）について
5. 令和7年度経営者懇談会およびセミナーについて
6. 令和7年度札幌開建電気通信事業に関する意見交換会について
7. その他意見交換

技術安全委員会

◇ 令和7年6月19日(木) 北海道電気会館
【第1回議題】

1. 令和7年度技術安全委員会の体制（案）について
2. 令和7年度技術・安全衛生基礎教育講習会について
3. 令和7年度釧根電業協会技術講習会について
4. 令和7年度技術安全委員会事業活動計画（案）について
5. 当面の事業活動について
6. その他意見交換

厚生委員会

◇ 令和7年6月26日(木) 北海道電気会館
【第1回議題】

1. 令和7年度ゴルフ部会会員入会状況と行事日程について
2. 令和7年度厚生委員会の体制（案）について
3. 令和7年度厚生委員会部会幹事について
4. 令和7年度厚生委員会事業活動計画（案）について
5. 今後の事業活動について
6. その他意見交換

事務局日誌

【6月】

- 2日(月) ○ 厚生委員会ゴルフ部会第1回幹事会
 5日(木) ○ 第1回総務委員会
 6日(金) ○ 建災防札幌分会役員会・通常総会
 (ANAクラウンプラザホテル) 鎌田専務
 9日(月) ○ 電設協第74回定時総会
 (ホテルニューオータニ) 藪下支部長他
 10日(火) ○ 建災防札幌分会全国安全週間説明会
 (札幌国際ビル) 鎌田専務
 11日(水) ○ 厚生委行事第1回ゴルフ部会
 12日(木) ○ 第3回三役会議
 ○ 札電協「ふれあい展」打合せ
 (北海道電気会館) 事務局
 13日(金) ○ 第1回経営委員会
 16日(月) ○ 道工組通常総代会懇親会
 (エーデルホフ札幌) 藪下会長
 17日(火) ○ 第2回理事会・常議員会
 ○ 電設協本部文挾会長意見交換会
 (札幌グランドホテル) 藪下支部長他
 19日(木) ○ 第1回技術安全委員会
 23日(月) ○ 令和7年度札幌市安全大会
 (北海道電気会館)
 26日(木) ○ 第1回厚生委員会
 ○ 北海道建設業労働災害防止大会
 (札幌共済ホール) 鎌田専務

【7月】

- 4日(金) ○ 認定講習Web開催対応説明会
 (電設協本部) 長内事務局長
 7日(月) ○ 厚生委員会ゴルフ部会第2回幹事会
 10日(木) ○ 第4回三役会議
 ○ 令和7年度札幌市電気設備施工研修会
 (北海道電気会館)
 11日(金) ○ 厚生行事第1回ボウリング部会
 15日(火) ○ 厚生行事第2回ゴルフ部会
 17日(木) ○ 広報委員会地方取材(釧路市)
 ○ 電気資材卸業協同組合記念式典
 (札幌ガーデンパレス) 萩本副会長
 23日(水) ○ 札幌開発建設部との意見交換会
 (札幌開建会議室) 伏木副会長他

- 24日(木) ○ 電設協本部常任理事会・定例懇談会
 (キャピタルホテル東急) 藪下支部長
 30日(水) ○ 厚生委員会野球部会幹事会
 31日(木) ○ 北海道電気安全大会
 (共済ホール) 鎌田専務

【8月】

- 7日(木) ○ 技術系学校先生との意見交換会
 (札幌グランドホテル)
 8日(金) ○ 第5回三役会議
 19日(火) ○ 北海道建設部との意見交換会
 (北海道電気会館)
 21日(木) ○ 電設協本部・支部事務連絡会議
 (本部会議室) 鎌田事務局長
 26日(火) ○ 第3回理事会・常議員会
 27日(水) ○ 「ふれあい展」参加者全体会議
 (かでの2・7) 長内事務局長
 29日(金) ○ 厚生行事第1回歌唱部会

【9月】

- 3日(水) ○ 第321回本部政策委員会
 今野経営副委員長
 5日(金) ○ 第6回三役会議
 8日(月) ○ 厚生委員会ゴルフ部会第3回幹事会
 9日(火) ○ 技術系学校生徒の現場見学会
 (札幌北1西5計画) 事務局
 10日(水) ○ 第2回総務委員会
 ○ 全国労働衛生週間説明会
 (札幌国際ビル) 鎌田専務
 11日(木) ○ シーケンス制御の基礎実技講習会
 (北海電工ビル) 長内事務局長
 12日(金) ○ 厚生行事野球部会(ソフトボール大会)
 18日(木) ○ 第2回経営委員会
 ○ 厚生行事第3回ゴルフ部会
 24日(水) ○ 第2回技術安全委員会
 25日(木) ○ 建設産業交通安全全道大会
 (札幌ガーデンパレス) 鎌田専務
 26日(金) ○ 北海道開発局営繕部意見交換会
 (合同庁舎会議室) 藪下会長他

編集後記

この度は、会報誌207号の発刊にあたり北海道建設部建築局長 飯沼 善範様には『道有建築物の整備における建築局の取り組み』についてご寄稿をいただきまして、心より感謝申し上げます。

今年の夏も道内各地で猛暑日が続出し、7月24日には北見市で39.0℃を記録するなど、地球温暖化の影響が確認された極端気象の一つであり、人間活動による地球温暖化の影響と分析されております。

北海道においても、2050年までに温室効果ガスの排出量実質ゼロを目指す『ゼロカーボン北海道』の実現に向けた様々な取り組みについてご紹介賜り、特に照明設備などの効率化、太陽光発電設備の設置や蓄電池の導入などによる原則ZEBの導入は、私ども電設業界も推進すべき課題であり、その重要な役割を担えるようご指導よろしくお願いいたします。

さて、私ども広報委員会は地方電業協会との交流の一環とし、7月に釧路市を訪問し釧路市学校給食センター現場取材と福司酒造の梁瀬 之弘代表取締役社長へのインタビューを行い、釧根地区協会員の皆様との交流も深めて参りました。

釧根地区の皆様には、大変お忙しい中、懇親会（乾杯は福司大吟醸）で温かくお迎えいただき、地元食材の味を大いに堪能するとともに、幅広く意見交換が出来ました。

今後とも、より良い会報誌の発刊に努めて参りますので、皆様からのより一層のご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

広報副委員長 大塚 雅史

広報委員会

担当副会長 萩本 哲夫
委員長 木村 賢史
副委員長 松岡 孝夫
副委員長 大塚 雅史

委員 足利 祐典
委員 有本 純
委員 内田 勝久
委員 片平 友樹

委員 坂本 淳
委員 嶋田 幸規
委員 細野 隆平
委員 本間 勝行

委員 三好 充博
委員 若宮 昇平
オブザーバー 嶋津 博

表紙の花『ライラック』：ライラックカラーとも言われる明るい紫、ピンク、白っぽいものなどがあり、華やかな香りに癒されます。日本のライラックは米国の教師が北海道に持ち込んだものといわれており、札幌では5月にお祭りも催され市の木として親しまれています。



発行 令和7年10月
一般社団法人 北海道電業協会
札幌市中央区北1条東3丁目1-1
北電興業ビル4階
TEL (011)271-2932
FAX (011)271-2952
E-Mail:dodenkyo@estate.ocn.ne.jp
URL:<http://www.dodengyo.jp/>

